

豊洲市場

11月開場見直し迫る

「理解と合意が不十分」

東京都議会委
かち議員迫る

日本共産党のかち佳代子東京都議は15日、都議会経済・港湾委員会で築地市場(中央区)の移転先、豊洲新市場(江東区)問題を取り上げ、11月7日の開場計画を見直すよう迫りました。

豊洲新市場整備をめぐっては、土壌汚染対策の欠陥、貧弱な交通アクセス、設計ミス問題をはじめさまざまな課題が山積し、市場業



者や消費者団体から批判があがっています。かち氏は「先日、築地パレード実行委員会

が公開質問状を都に出したように、関係者の理解と合意が十分にはかられているとはいえない」と批判。その背景には新市場の施設計画に構造的な欠陥があることを指摘し、開場計画の見直しを要求し

ました。

中央卸売市場の飯田一哉・新市場整備部長は「市場業者の理解の促進につとめ、11月7日に確実に豊洲市場を開場する」と、移転日の延期を拒否しまし

た。

かち氏は、豊洲市場の整備費が膨れ上がっている問題を追及し、市場会計の保有資金と企業債(借金)残高の推移を質問しました。坂田直明・財政調整

担当部長は、保有資金は豊洲市場の整備事業を開始した2001年度末の2800億円から16年度末は455億円に減少し、企業債残高は954億円から3763億円に増える見込みだと答弁。

かち氏は、新市場整備費が5884億円に膨れあがったことは深刻だと述べ、今後さらに市場会計が圧迫される恐れがあると指摘しました。